

特集 まちの台所事情

市の財政公表

平成17年12月、市は登別市まちづくり基本条例を制定し、市民と行政の協働のまちづくりがスタートしました。

しかし、現在、市の財政はかつてないほど厳しい状況です。三位一体の改革によって実質的な地方交付税が減少、そしてこれまでの市債（借金）の償還金に当たる公債費の高止まり、団塊世代の職員の退職金の増加など、市の台所事情を市民の皆さんに知っていただくことはとても大切なことです。

今月号は、市の財政状況を都会から戻ってきたQさんと、その友達の市職員Aさんの会話を通して紹介します。

登場人物紹介



首都圏の民間企業に勤めていたが、親の家業を継ぐため、妻子とともに数月前にふるさと登別にUターン。家業のかたわら、登別市のまちづくりにも協力したいと考えている。



市役所に勤めて20年。市の財政に精通するベテラン。Qさんとは高校時代の同級生で、一緒に柔道部で汗を流した仲間。

登別市の財政は大丈夫?!



会社を辞めて登別市に戻ると決めたとき、ちょうど北海道のまちが財政破綻しただろう。同じ北海道の登別市は大丈夫かって何度も聞かれたよ。それで、登別市はどうなの。



まちの財政破綻は、決してひとごとじゃないんだよ。登別市の財政もとても厳しい状況なんだ。景気が回復して税収が伸びたのは一部の地方自治体だけで、全国の多くの自治体が厳しい状況なんだよ。



登別市で暮らしているうちに戻ってきたばかりなんだから、がっかりさせないでくれよ。

どうして、こんなに地方自治体の財政が厳しくなったんだい。



景気の状態や人口減少、少子高齢社会の到来など、いろいろあるけれど、特に大きな要因は、三位一体の改革によって、実質的な地方交付税が大幅に減額されたことが挙げられるよ。

Qさんの住んでいた都会と違って、地方の自治体は税収入のように使道の決まっていな自由になるお金が少なく、地方交付税に頼っているところが大きいんだ。この改革によって、多くの地方自治体が悲鳴を上げているのが現状だよ。

地方交付税というのは、地方自治体には税収の多いところも少ないところもあるからこの不均衡を調整し、どの自治体も基本的なサービスが出来るように財源を保障するものなんだ。

累積収支不足額28億円！ 中期財政見直し



広報のぼりべつ10月号の特集『中期財政見直し』を読んだけど、この見直しでは、平成22年度までに28億2千万円もの収支不足がでると試算しているんだね。驚いたよ。



そうなんだ。

このまま何も対策を講じなければとんでもないことになるよ。